

# 鉄筋溶接技術資料-011

## 鉄筋の曲げ試験判定方法

愛知工業大学教授 尾形素臣

鉄筋の溶接継ぎ手は多用途に使用されている。その溶接技量の判定には曲げ試験が行われることが多い。曲げ試験による適切な溶接技量の判定方法が求められている。曲げ試験の溶接技量確認のための判定方法を紹介する。

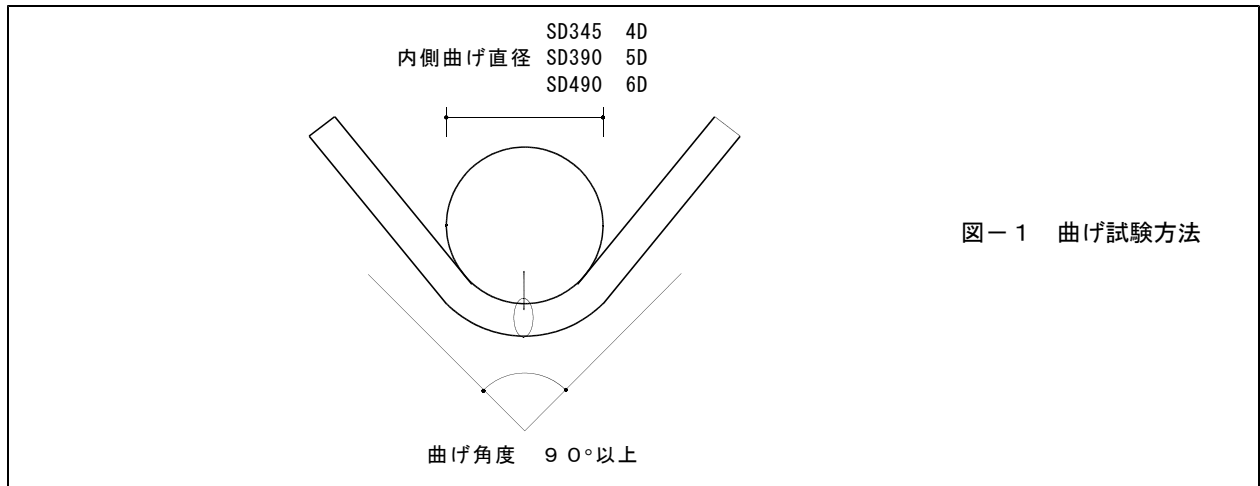
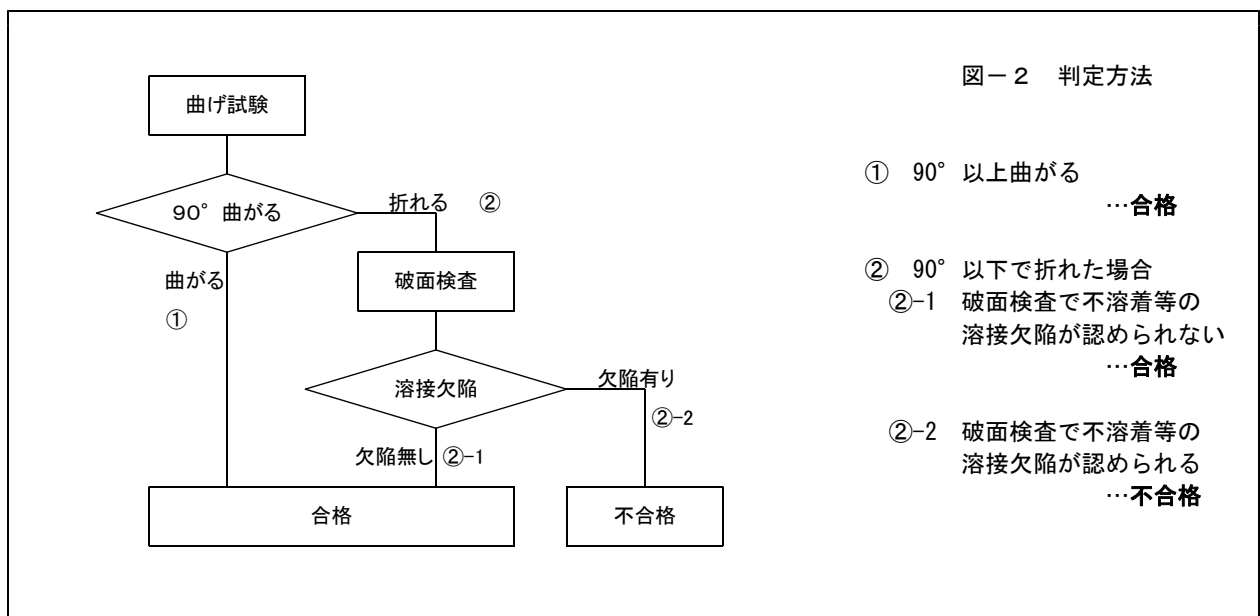


図-1 曲げ試験方法

図-1の内側曲げ直径はJIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」の母材曲げ試験と同一である。この試験で図-2のフローのように溶接技量を判定していく。



注) ②-1ボンド部および熱影響部で折れた場合は鉄筋の溶接性の問題である。(技術資料-009参照)

②-2において溶接欠陥の許容値は断面積の3%以内(引張試験では合格となる。)

鉄筋溶接継ぎ手協会 会長 尾形素臣  
 愛知工業大学総合技術研究所  
 〒470-0356 愛知県豊田市八草町八千草1247  
 TEL 0565-48-8121 FAX 0565-48-0030